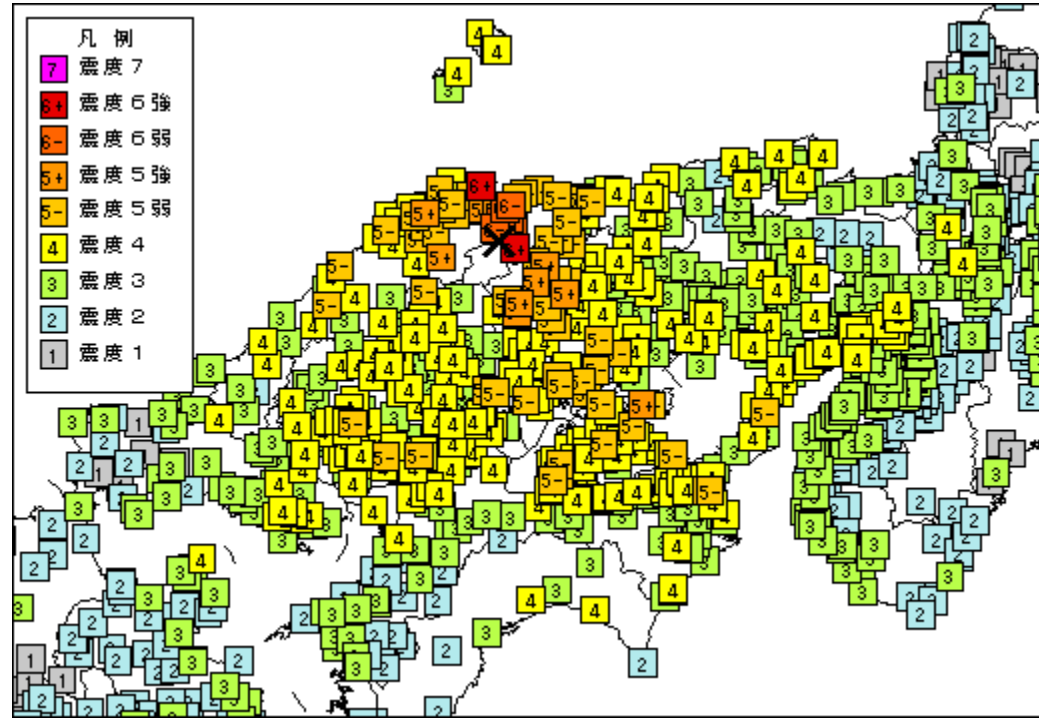


# 「平成 12 年（2000 年）鳥取県西部地震」の概要

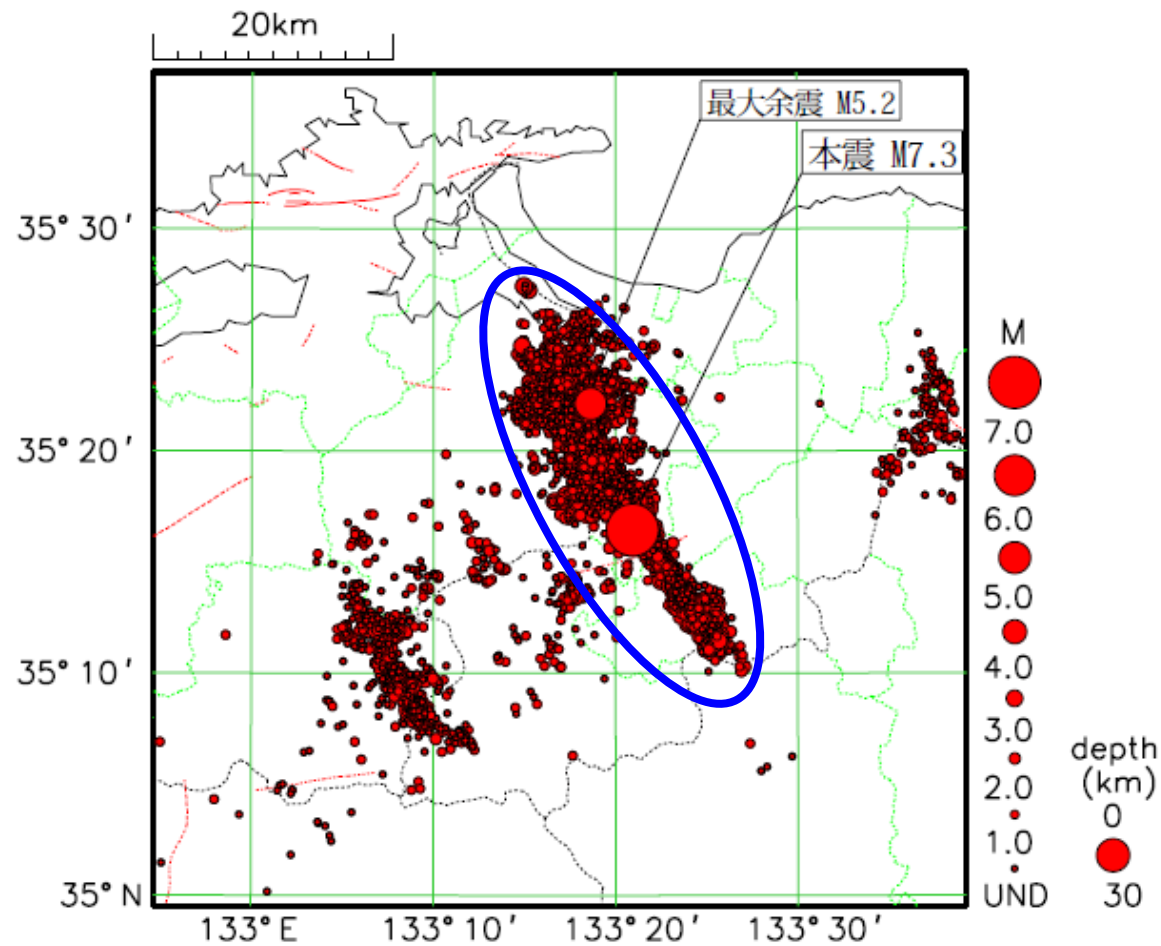


「平成 12 年（2000 年）鳥取県西部地震」の震度分布図（観測点毎）

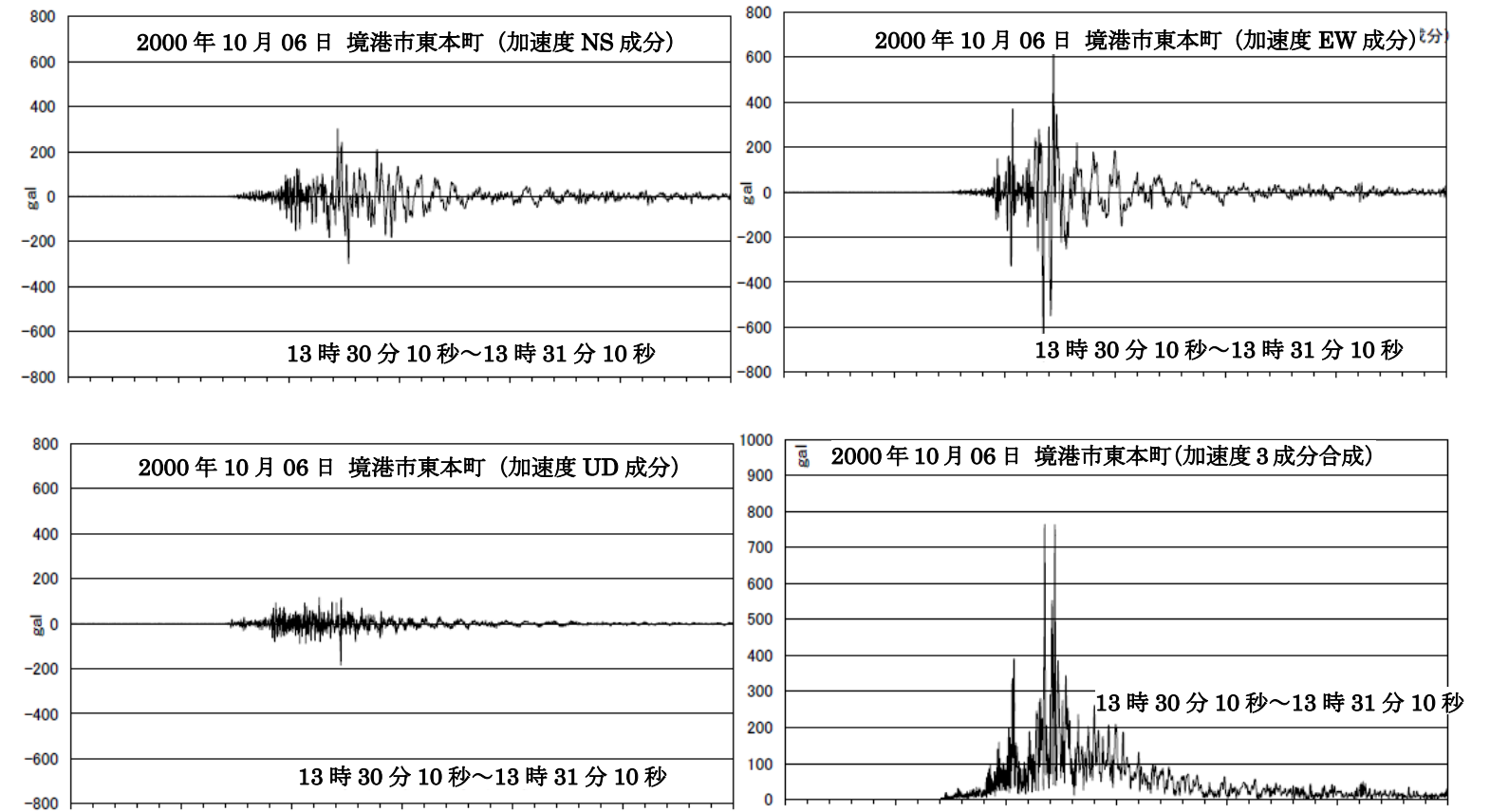
平成 12 年（2000 年）10 月 6 日 13 時 30 分、鳥取県西部の深さ約 9 km でマグニチュード 7.3 の地震があり、境港市及び日野町で震度 6 強、西伯町、会見町、岸本町、溝口町、淀江町、日吉津村（市町村名は当時）で震度 6 弱を観測した他、中国・四国・近畿地方を中心に震度 5 強～1 を観測した。左図より震度 5 弱以上を観測した地点は 75 ヶ所で、概して北北西～南南東に延びており、後述する余震域の走向と一致している。これは、断層破壊が開始点から北北西と南南東の 2 方向に進んだためと考えられる。震度 6 強を観測した境港市東本町（気象庁設置、震央から北西に約 30km）では、最大合成加速度\*762 ガル ( $\text{cm/s}^2$ )、日野町根雨（鳥取県設置、震央から南東に約 10km）では、最大合成加速度 1,584 ガルであった。発震機構解は東西方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型で、この周辺の地域で見られる発震機構とほぼ同じであった。

左下の図より、余震は北北西～南南東方向に約 30km にわたって分布しており（青い楕円内）、ほぼ本震による震源域を表していると考えられる。最大規模の余震は 10 月 8 日に発生した M5.2 である。また、余震域と離れた島根県東部、及び岡山・鳥取県境付近にも鳥取県西部地震の影響を受けたと考えられる活動がみられた。

※最大合成加速度とは、水平方向 2 成分（東西方向・南北方向）と上下方向 1 成分の 3 成分を合成した加速度の最大値で、揺れの大きさの目安となる。ただし、震度は揺れの周期や継続時間が考慮されるため、最大合成加速度の大きさが震度の大きさと対応しているわけではない。



余震の震央分布図（地震発生後約 1 ヶ月：本震含む）



境港市東本町における鳥取県西部地震の加速度記録  
（横軸の 1 目盛は 2 秒）

# 「平成12年（2000年）鳥取県西部地震」の被害状況

鳥取県西部地震により、負傷者182名、全壊家屋435棟、住家半壊3,101棟、住家一部破損18,544棟等の被害が発生したが、幸い死者はなかった。被害は、主に地震による揺れによるものであった。被害の範囲は、鳥取県、岡山県、島根県、大阪府、広島県、香川県、兵庫県、和歌山県、山口県、徳島県の1府9県であった。鳥取県内では、負傷者141名、住家全壊394棟、住家半壊2,494棟、住家一部破損14,134棟等の被害が発生した（被害は総務省消防庁による）。

境港市 震度6強 負傷者86人  
 ・家屋等：全壊71棟、半壊287棟、一部破損1,228棟  
 ・特記事項：液状化現象発生



出雲大社上道教会の南側半分が倒壊  
 液状化による地盤の歪みによりマンホールの枠が半分に割れた

米子市  
 (旧米子市 震度5強) 負傷者16人  
 ・家屋等：全壊103棟、半壊1,090棟、一部破損5,914棟  
 ・特記事項：液状化現象発生  
 (旧淀江町 震度6弱) 負傷者1人  
 ・家屋等状況：家屋一部破損411棟

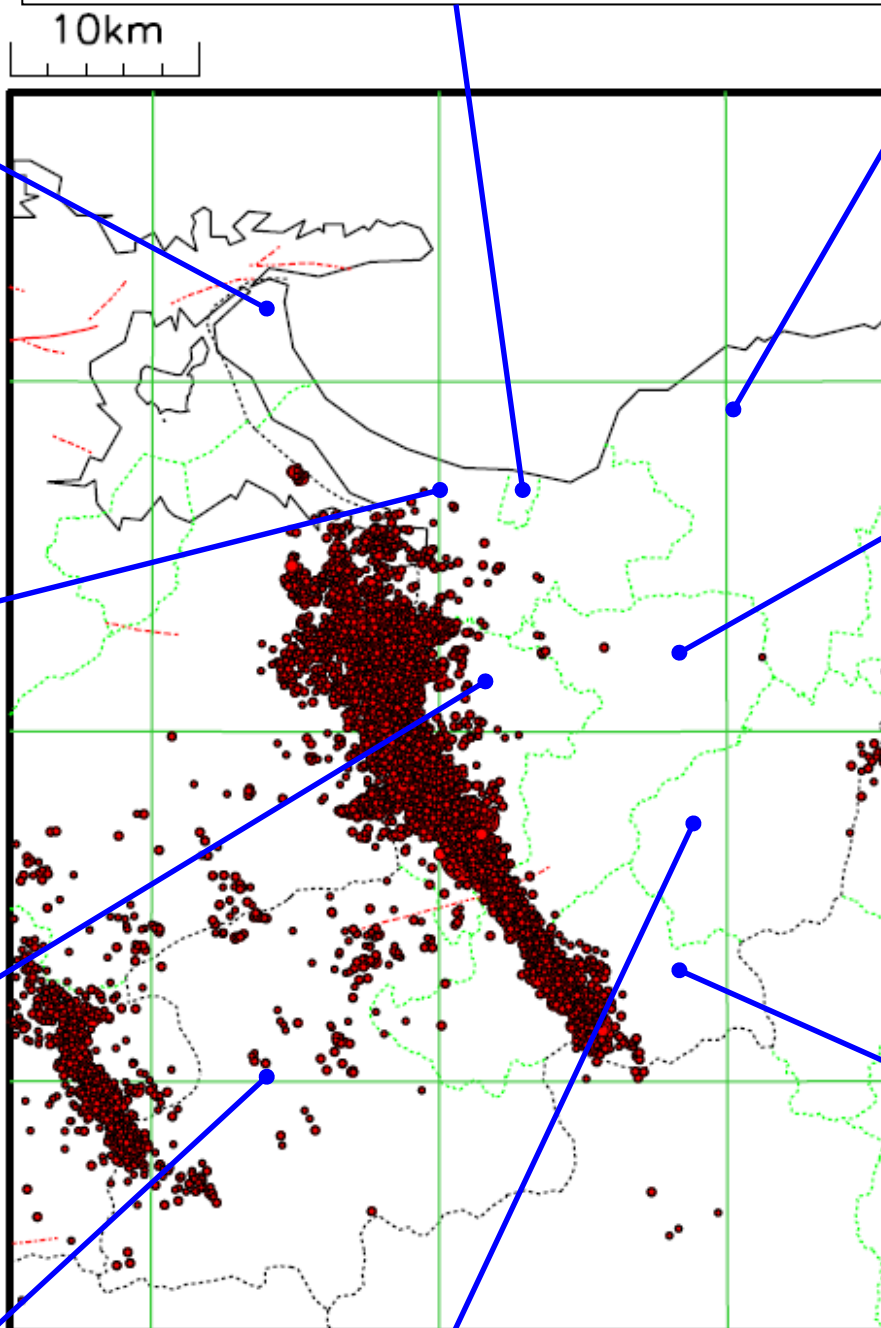
南部町  
 (旧西伯町 震度6弱) 負傷者7人  
 ・家屋等：全壊40棟、半壊392棟、一部破損1,208棟



墓石の倒壊  
 中学校グラウンドの地割れ  
 (旧会見町 震度6弱) 負傷者3人  
 ・家屋等：全壊2棟、半壊43棟、一部破損879棟

日南町 負傷者2人  
 ・家屋等：半壊12棟、一部破損368棟

日吉津村 震度6弱  
 ・家屋等：全壊1棟、半壊12棟、一部破損281棟  
 ・特記事項：液状化現象発生



江府町 負傷者2人  
 ・家屋等：半壊1棟、一部破損847棟

大山町  
 (旧大山町 震度5弱) 負傷者3人  
 ・家屋等：半壊1棟、一部破損120棟  
 (旧名和町 震度5弱)  
 ・家屋等：半壊1棟、一部破損19棟  
 (旧中山町 震度5弱)  
 ・家屋等：一部破損7棟

伯耆町  
 (旧溝口町 震度6弱) 負傷者4人  
 ・家屋等：全壊48棟、半壊204棟、一部破損755棟



山腹崩壊  
 (旧岸本町 震度6弱)  
 ・家屋等：半壊10棟、一部破損1,097棟

日野町 震度6強 負傷者15人  
 ・家屋等：全壊129棟、半壊441棟、一部破損945棟



民家外壁の倒壊

市町村の被害件数は  
 震災誌（鳥取県防災局編集、2007年）から引用